

平成16年度

21世紀COEプログラム公募要領

《研究拠点形成費補助金》

平成16年1月
文部科学省

目 次

1. 事業の背景・目的

2. 事業の概要
 - (1) 公募の対象
 - (2) 申請者・申請内容等
 - (3) 経費の範囲
 - (4) 事業期間
 - (5) 公募範囲・選定件数・事業規模

3. 審査方法等

4. 申請に当たっての留意事項
 - (1) 申請書類
 - (2) 申請手続
 - (3) 生命倫理や安全確保に係る指針等について
 - (4) その他

5. その他の留意事項
 - (1) 代表者等の留意事項
 - (2) 事業の評価
 - (3) 公表

6. 問い合わせ・スケジュール等

1. 事業の背景・目的

〔背景〕

我が国の大学が、世界トップレベルの大学と伍して教育及び研究活動を行っていくためには、第三者評価に基づく競争原理により競争的環境を一層醸成し、国公私を通じた大学間の競い合いがより活発に行われることが重要です。

〔目的〕

このことに鑑み、21世紀COEプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的とするものです。

平成16年度は、大学全体の継続的な構造改革を図る上での本プログラムの重要性などに鑑み、対象範囲を限定して新規公募を実施することとします。
(公募範囲については、4頁2.(5)参照。)

2. 事業の概要

(1) 公募の対象

国公立大学（学校教育法第2条第2項に規定する国立学校、公立学校及び私立学校である大学）における以下のような大学院研究科専攻等（博士課程レベル）が、世界的な研究教育拠点を形成するための事業計画を対象とします。

①大学院研究科（博士課程レベル）の専攻、複数専攻の組み合わせ

（学校教育法第66条ただし書きに定める組織に係るものも可です。）

（なお、博士課程レベルとは、区分制の場合は後期3年間を、一貫制の場合は区分制に相当する3年間を、医、歯、獣医学についてはこれらに相当する4年間を指します。また、専攻について、複合的な専攻の場合は、専攻の細分単位を含みます。）

②大学附置の研究所、研究センター等（研究の水準が大学院の博士課程レベルに相当すると認められ、国公立大学とも学則等により正式に認められているものとする。）の研究組織、複数研究組織の組み合わせ

③上記①と②の組み合わせ

なお、組み合わせの場合は、同一大学内のものとする。（ただし、今後、他大学との再編・統合が決まっている大学において、再編・統合後、当該相手大学の専攻等と拠点を形成する場合においては、その組み合わせに基づく申請も可とします。）

また、大学としての戦略性の観点から複数の専攻等を有機的に組み合わせることにより意義がある場合には、そのような組み合わせによって申請を行うことが期待されます。

(2) 申請者・申請内容等

- 本事業について申請をすることができる者は、各大学の専攻等の研究代表者としての学長です。
- 本補助金の事業者は、学長及び拠点となる専攻等の事業推進担当者（拠点リーダーを含む。以下同じ。）となります。事業推進担当者は、拠点となる専攻等の構成メンバーのうち当該拠点形成を担う研究者で、拠点リーダーと共同して拠点形成計画の遂行に中心的役割を果たすとともに、その遂行に責任を持つ研究者を指します（名目的に名前を連ねるなど、実質的な責任を負わない者は、事業推進担当者とすることはできません）。拠点リーダーは、専攻等に所属する常勤の研究者（教員）とし、拠点リーダーを除く事業推進担当者は、専攻等に所属する常勤又は非常勤の研究者（教員）としてください。なお、同一大学内の他の部局（研究科）に所属する研究者（教員）を事業推進担当者とする場合は、各大学において所属長の承認を得ていることを確認するようにしてください。
- 事業推進担当者は、2つ以上の申請に係ることはできません。（既に採択された拠点で事業推進担当者となっている者も、今回の申請に係る事業推進担当者となることはできません。）
- 法令等に違反して本補助金に関する不適正な事業を行った研究者は、以下のとおり、一定期間、本補助金の事業者（学長及び拠点となる専攻等の事業推進担当者）となることはできません（既に採択されている事業はもとより、今回の申請に係る事業への参画はできません）。
 - ① 不適正な事業を行った場合は、補助金の返還が命じられた年度の翌年度以降2年間（②の場合を除く。）
 - ② 不適正な事業を行い、本事業以外の用途への使用があった場合は、補助金を返還が命じられた年度の翌年度以降2～5年以内の間で、その内容等を勘案して相当と認められる期間
- 学長を中心としたマネジメント体制の下、どの専攻等を如何にして世界的な研究教育拠点に育成するかという大学の将来構想、専攻等の拠点形成計画、研究教育活動等を取りまとめて、学長から文部科学大臣宛に必要な調書を提出してください。（ただし、調書の提出先は日本学術振興会です。5頁4.(2)参照。）
- 事業計画の内容は、専攻等が行っている研究教育活動の全てにわたる必要はなく、具体的に拠点形成を目指すものに焦点を絞ることが期待されます。
- 内容の詳細については、別添2「平成16年度 21世紀COEプログラム 将来構想等調書、拠点形成計画調書及び研究教育活動調書（作成・記入要領）」を参照してください。

(3) 経費の範囲

- 申請できる経費は、本事業計画の遂行に必要な以下の経費です。申請に当たっては、事業計画の実施期間（5年間）における所要経費を提出していただきますが、各年度の補助金額は、本補助金の当該年度の全体予算額を踏まえ、事

業計画の内容等を総合的に勘案して毎年度決定されることとなります。

- 2年経過後に行われる中間評価の結果は、第4年次以降の補助金額の決定に反映されます。
- 経費の取扱いについては、別に通知する取扱要領等にしがって適切に管理執行していただくこととなりますので、留意してください。
(平成15年度版「取扱要領」を参照してください。)

【設備備品費】

補助金により購入した設備備品（図書(雑誌等を除く。)を含む。その性質及び形状を変ることなく比較的長期の使用に耐えるもの。）は、研究拠点形成費補助金により購入したものである旨を記し、備品番号をつけるなど適正に管理してください。

本補助金は、物品購入を目的とするものではないため、設備備品費は、本事業計画の遂行上、必要不可欠なものに限ってください。

また、上記の設備備品を設置する際の軽微な据付のための経費についても使用できます。

【旅費】

本事業を遂行するに当たり必要な旅費（国内旅費、外国旅費、外国人招へい等旅費）に限られます。

【人件費】

本事業を遂行するに当たり必要な研究支援、労働、専門的知識の提供等の協力を得た人に対する手当・諸謝金・賃金について使用できます。これらについては、大学が直接雇用したり、又は労働派遣業者と契約する場合と、補助事業者（学長等）が謝金を支払ったり、又は労働派遣業者と契約する場合があります。

【その他】

本事業を遂行するために必要な消耗品費、借料・損料、土地（建物）借料、印刷製本費、通信運搬費、光熱水料、雑役務費（送金手数料、収入印紙代、知的財産権の出願・登録経費、試作品費等）、会議費、委託費、招へい外国人滞在費、その他大臣が認めた経費についても使用することができます。

消耗品費については、消耗器材、薬品類、飼育動物の飼料その他の消耗品の代価及び備品に付随する部品等の代価です。

委託費については、本事業を遂行するために必要であり、かつ、本事業の本質（事業計画の対象となる専攻等が世界的な研究教育拠点を形成すること）をなさない定型的な業務を他に委託して行わせることは可能ですが、原則として、各年度に申請する補助金額の50%を超えないようにしてください。

なお、本事業の遂行に関連のない酒類や講演者の慰労会、懇親会等の経費、本事業の遂行中に発生した事故、災害の処理のための経費、

学生に対する学資金の援助のための経費等、本事業の遂行と直接関連のない経費には使用することができませんが、本事業として行われる国際会議・国際シンポジウムに不可欠なものとして開催されるレセプション等に必要な経費には使用できます。

建物等施設の建設、不動産取得に関する経費については使用することはできません（軽微な改修のための経費を除く）。

○ 上記の経費の範囲内において、本補助金の使途として、例えば、以下のよう
なものが挙げられます。

- ・世界トップレベルの研究者の招へいに必要な経費
- ・トップレベルの教員による指導に必要な経費
- ・優秀な学生を確保し、学生が高度な自発的研究を行うために必要な経費
- ・TA、RA、ポスドクなど、優秀な若手研究者の支援に必要な経費
- ・世界のトップレベルの大学等との共同研究の実施に必要な経費
- ・学会、シンポジウム等を企画・開催するための経費
- ・教育研究支援職員の雇用等に要する経費
- ・最先端研究を推進するために必要な設備の購入等に必要な経費
- ・教育研究スペースの確保に要する経費
- ・海外の拠点設置に必要な経費 等

（４）事業期間

5年を原則とします。ただし、2年経過後に行われる中間評価等を踏まえ、補助が打ち切られることもあります。

（５）公募範囲・選定件数・事業規模

①公募範囲

革新的な学術分野の開拓を目指す研究教育拠点形成に範囲を限定して、平成16年度の事業の選定を実施します。

（平成14、15年度においては、各年度5分野、計10の学問分野について公募を行ったところですが、平成16年度は、革新的な学術分野の開拓を目指す研究教育拠点形成に限定した公募を行うもので、平成14、15年度に既に審査が行われた学問分野毎の再公募ではありません。）

具体的には、

- ・新たな学術的進展が認められる研究教育領域であるもの
- ・新たな学術分野の構築を目指した研究教育体制の基盤が整備されているもの

などを対象とします。

<公募にあたり特にご留意いただきたい事項>

- 本プログラムの目的に鑑み、個別の研究プロジェクトではなく、研究教育拠点形成のプログラムであること。
- 大学院博士課程レベルの研究教育を対象としたプログラムであり、本プログラムの目的に相応しい活発な活動、取組の基盤があること。

○ 1 大学から複数申請することは可能であること。

②選定件数

申請状況、事業内容等を勘案の上、10～30件程度とします。

③事業規模

事業内容等を勘案の上、1件当たり年間1千万円から5億円の範囲で、必要な経費に限定して申請してください。

3. 審査方法等

本補助金交付先の選定のための審査は、独立行政法人日本学術振興会を中心に運営される「21世紀COEプログラム委員会（以下「プログラム委員会」という。）」において行われます。

審査方法等の概要は、別添1「21世紀COEプログラム」審査要項（抄）を参照してください。

なお、審査の過程で、調書等をもとにヒアリングを行う場合がありますが、本年度は、概ね6月の中旬から中旬にかけて行われる予定です。ヒアリング対象となったところに対しては、別途、プログラム委員会よりその旨の連絡をいたしますので、調書等の内容について責任をもって対応できる拠点リーダー等におかれましては、対応可能な状態にしておいてください。

4. 申請に当たっての留意事項

(1) 申請書類

別添2「平成16年度 21世紀COEプログラム 将来構想等調書、拠点形成計画調書及び研究教育活動調書（作成・記入要領）」及び別添3「平成16年度 21世紀COEプログラム申請カード・拠点組織表（作成・記入要領）」に基づき、本事業の背景・目的を十分に踏まえて、所定の様式で調書等を作成し、学長から文部科学大臣宛に申請してください。

また、調書は原則として日本語によることとしますが、事務手続上必要な項目を除き、英語による申請も可とします。

なお、申請カードに基づいて審査資料を作成しますので、拠点形成計画調書に記載した内容と異なったり、記載漏れの事項がないよう十分留意してください。記載漏れ等があった場合、審査対象とされないこともあります。

(2) 申請手続

申請書類を、平成16年3月3日（水）～3月4日（木）（午前9時30分から正午まで及び午後1時から午後5時まで。）の期間内に、独立行政法人日本学術振興会に提出してください。申請書類を送付する場合は、配達証明ができる方

法（配達記録、小包、簡易書留、宅配便等）で余裕をもって発送し、上記提出期間内に必着するようにしてください。

【提出部数】別添2「平成16年度 21世紀COEプログラム 将来構想等調書、拠点形成計画調書及び研究教育活動調書（作成・記入要領）」関係・・・50部

別添3「平成16年度 21世紀COEプログラム申請カード・拠点組織表（作成・記入要領）」関係・・・2部

【提出先】〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地 一番町FSビル7F
独立行政法人日本学術振興会
研究事業部研究事業課（21世紀COEプログラム担当）
（電話：03-3263-1758）

プログラム委員会で選定されたものについては、別途、交付内定及び補助金交付申請手続に関する連絡をいたします。

（3）生命倫理や安全確保に係る指針等について

事業計画の策定に当たっては、当該計画が「ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律」（平成12年法律第146号）、「ヒトに関するクローン技術等の規制に関する法律施行規則」（平成13年文部科学省令第82号）、同法に基づく「特定胚の取扱いに関する指針」（平成13年12月文部科学省告示第173号）、「ヒトES細胞の樹立及び使用に関する指針」（平成13年9月文部科学省告示第155号）、「遺伝子治療臨床研究に関する指針」（平成14年3月文部科学省・厚生労働省告示第1号）及び「遺伝子組換え生物等の使用等の規制による生物の多様性の確保に関する法律」（平成15年法律第97号）等の法令及び指針に示される基準に適合することを十分確認し、これらに沿った適正な手続を行うよう注意するとともに、「ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する倫理指針」（平成13年3月文部科学省・厚生労働省・経済産業省告示第1号）、「疫学研究に関する倫理指針」（平成14年6月文部科学省・厚生労働省告示第2号）、「臨床研究に関する倫理指針」（平成15年7月厚生労働省告示第255号）等の指針及び各大学等で定めた倫理規定等を遵守するようにしてください。

なお、これらに不備が確認された場合は、本補助金の交付を取り消すことがあります。

（4）その他

- 現に又は今後、国等から助成を受ける研究プロジェクト等の経費について、重複して本事業の経費として交付申請することはできません。
- 一度選定された事業については、原則として、当初計画に基づいて5年間補助事業を実施することとなりますので、あらかじめ計画を十分に練った上で申請するようにしてください。
- 提出された調書等については、本公募要領にしたがっていない場合や不備がある場合も、差し替えや訂正は原則として認めません。また、審査に付さないことがあります。
- 提出された調書等は返還いたしませんので、各大学において控えを保管するようにしてください。

5. その他の留意事項

(1) 代表者等の留意事項

選定がなされ補助金の交付を受けた場合には、各大学の専攻等の研究代表者としての学長、拠点となる専攻等の事業推進担当者及び経理事務の委任を受ける大学の事務局は以下のことに留意してください。

①補助事業の遂行及び管理

本補助金の財源は国の予算であるため、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律」、「補助金等に係る予算の執行の適正化に関する法律施行令」、等に基づいた適切な経理等を行わなければなりません。

また、調書、交付申請書、報告書等の作成や提出、事業の実施等を、各大学毎に学長の下、一括して行うようにしてください。

②補助金の執行事務等

本補助金の執行事務を適切に遂行するため、本補助金の経理事務は、拠点となる専攻等の所属する大学の事務局に委任し、計画的に経費の執行管理を行うようにしてください。その際、本補助事業に要した費用について他と経理を明確に区分し、その収入及び支出の内容を記載した帳簿を備え、その収入及び支出に関する証拠書類を整理し、並びにこれらの帳簿及び書類を当該全事業完了の年度の翌年度から5年間保存することにも注意してください。

なお、設備備品等を購入した場合は、それらが国から交付された補助金により購入されたものであることを踏まえ、補助事業の期間内のみならず、補助事業の終了後においても、善良な管理者の注意をもって管理し、補助金交付の目的に従って、その効率的運用を図るようにしてください。

③その他法令、国の定めるところにより、必要な責任を負うこととなります。

(2) 事業の評価

2年経過後には中間評価を、当該全事業完了（5年）後には事後評価をプログラム委員会で行います。

中間評価の結果によっては、当初計画どおり補助金が交付されなくなることがあります（補助が打ち切られることもあります）。

なお、評価については、プログラム委員会で決められた評価方法、基準等に基づいて行われます。

(3) 公表

申請時に、申請大学名、各大学ごとの申請数を公表する予定です。また、採択されたものについては、拠点リーダー名、拠点形成計画概要等についても公表する予定ですので、あらかじめ御了承ください。

6. 問い合わせ先・スケジュール等

《調書及び審査・評価に関する問い合わせ先》

〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地 一番町FSビル7F

独立行政法人日本学術振興会

研究事業部研究事業課（21世紀COEプログラム担当）

電話：03-3263-1758

FAX：03-3237-8015

ホームページ：http://www.jsps.go.jp

（本ホームページより、提出調書の様式のダウンロードが可能です。）

《公募要領その他の問い合わせ先》

〒100-8959 東京都千代田区丸の内2-5-1

文部科学省高等教育局大学改革官室

電話：03-6734-3309

FAX：03-6734-3387

ホームページ：http://www.mext.go.jp

（本ホームページより、提出調書の様式のダウンロードが可能です。）

《スケジュール》

○調書の提出期間：平成16年3月3日（水）～3月4日（木）

（午前9時30分から正午まで及び午後1時から午後5時まで。）

○選定結果の通知（予定）：平成16年6月下旬

「21世紀COEプログラム」審査基準

平成16年1月19日
21世紀COEプログラム委員会

「21世紀COEプログラム」の審査は、この審査基準により行うものとする。

I. 審査基準

1. 分野別審査・評価部会における審査

(1) ヒアリングを実施すべき研究教育拠点（以下、「拠点」という。）の選定

分野別審査・評価部会は、書面及び合議の審査によりヒアリングを実施すべき拠点の選定を行う。

①個別書面審査

書面の審査は、各委員及び専門委員が「将来構想等調書」、「拠点形成計画調書」、「研究教育活動調書」をもとに行う。その際、「評価書（レフェリー評価）」の評価を参考とする。

各委員及び専門委員は、書面の審査に当たって、別添「評価に当たっての着目点」の各要素に着目しつつ次表により評価を行う。

○ 評価書の作成（レフェリー評価）

分野別審査・評価部会の部会長は、ヒアリングを実施すべき拠点を選定する際の資料とするため、申請のあった各拠点毎に選定した2名（又は3名）の者（部会の委員及び専門委員から推薦のあった者より選考）に、拠点形成計画調書をもとに「評価書」の作成を依頼する。

「評価書」の作成に当たっては、別添「評価に当たっての着目点」（1）の①～③、（2）の②～⑥及び（3）の①の各要素に着目し、各要素毎に意見を付すものとする。

区分	評 価
	研究教育活動の大半は非常に優れており、世界最高水準の拠点形成に相応しい計画である。
	研究教育活動のいくつかは優れており、世界最高水準の拠点形成が可能な計画である。
	世界最高水準の拠点形成は、研究教育活動及び計画において劣る。
	世界最高水準の拠点形成は、困難である。

（注）該当する評価の「区分」欄に、✓のチェックを記入する。

②合議審査

合議の審査は、①の個別書面審査の結果について審議を尽くした上で、総合評価を次表により行い、ヒアリングを実施すべき拠点を選定する。

その他、ヒアリングを実施すべき拠点を選定するに当たって必要となる事項は、分野別審査・評価部会が合議により定める。

区分	評 価
	ヒアリングを実施する。
	ヒアリングは実施しない。

（注）該当する評価の「区分」欄に、○印を記入する。

(2) ヒアリングの実施

- ① 分野別審査・評価部会において、「将来構想等調書」、「拠点形成計画調書」、「研究教育活動調書」をもとに、ヒアリングを行うものとする。
その際、「評価書」の評価を参考とする。
- ② 実施に当たっては、別に定める「ヒアリング実施要領」により行う。
(イ) 学長（若しくは副学長等、大学の将来構想等について責任をもって説明できる者。）及び拠点リーダーに対し、ヒアリングを行う。
(ロ) ヒアリングを実施した拠点については別添「評価に当たっての着目点」の各要素に着目しつつ、次表により評価を行う。

区分	評 価
	非常に優れた拠点形成計画であり、実現性・発展性が大いにある。
	優れた拠点形成計画であり、実現性・発展性に期待できるところがある。
	良い拠点形成計画であるが、実現性・発展性にやや難点がある。
	拠点形成計画としては、再検討を要する。

(注) 該当する評価の「区分」欄に、✓のチェックを記入する。

- ③ 分野別審査・評価部会は、全ヒアリング終了後、必要に応じて実地調査を行うなど、審議を尽くした上で、合議により総合評価を次表により行い、採択候補拠点を選定する。

区分	評 価
	採択候補拠点とする。
	余裕があれば、採択候補拠点とする。
	採択候補拠点としない。

(注) 該当する評価の「区分」欄に、○印を記入する。

2. 総合評価部会における審査

- ① 総合評価部会は、分野別審査・評価部会において選定された採択候補拠点の中から、「21世紀COEプログラム」の拠点として相応しいと判断されるものを採択決定する。
- ② その際、総合評価部会は、分野別審査・評価部会が選定した採択候補拠点について、以下の観点から審議を尽くした上で、合議により全体調整（総合評価及び必要な調整）を行う。
(観点)
○分野別審査・評価部会により選定された採択候補拠点が、本事業の趣旨、目的等に照らして適当なものであるか。

評 価	評 価
S	世界最高水準の拠点として採択する。
A	余裕があれば、世界最高水準の拠点として採択する。
B	世界最高水準の拠点として採択しない。

評価に当たっての着目点

「書面の審査」、「ヒアリングの実施」及び「評価書の作成」を行う際、評価に当たっての着目点は次のとおりとする。

(1) 研究教育活動の実績

- ① 研究教育活動が、当該分野において、世界的な水準から見て優れたものであるか。
- ② 研究教育活動が、当該将来構想、特に拠点形成計画を遂行するに当たって必要なポテンシャルを示すものであるか。
- ③ 研究教育活動の現状は、必ずしも十分とは言えないが、将来、世界最高水準になりうるものか。

(2) 将来構想及び拠点形成計画

- ① 学長を中心としたマネジメント体制の下、世界最高水準の拠点形成への重点的取り組みが予定されているものであるか。
- ② 拠点形成計画の内容が、世界最高水準を目指すものであるか。
- ③ 拠点形成計画が、着実かつ現実的であり、拠点として活性化が図られるものであるか。
- ④ 若手研究者が、独立してその能力を十分に発揮できるような拠点形成となっているか。
- ⑤ 研究を通じた教育により、学生が将来、有為な人材として活躍できるよう必要な体制が計画されているか。
- ⑥ 特色ある学問分野の開拓を通じて独創的、画期的な成果が期待できるか。
- ⑦ 大学全体の将来構想において、拠点形成計画が十分戦略的なものとして位置付けられているか。

(3) 申請経費の合理性等

- ① 申請経費の内容は妥当であり、計画上、必要不可欠なものか。

「21世紀COEプログラム」審査要項

平成16年1月19日
21世紀COEプログラム委員会

21世紀COEプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行い、もって、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的とする。

21世紀COEプログラムの審査は、この審査要項により行うものとする。

I. 審査方針

1. 21世紀COEプログラムの研究教育拠点（大学院博士課程の専攻、大学附置研究所の研究組織等）は、次の事項に留意し選定する。

平成14、15年度においては、各年度5分野、計10の学問分野について研究教育拠点を選定したところであるが、平成16年度は、大学全体の継続的な構造改革を図る上での本プログラムの重要性などに鑑み、革新的な学問分野の開拓を目指す研究教育拠点に限定して選定する。

- ① 当該分野における研究上、優れた成果を挙げ、将来の発展性もあり、高度な研究能力を有する人材育成機能を持つ研究教育拠点の形成が期待できるもの
- ② 学長を中心としたマネジメント体制による指導力の下、個性的な将来計画と強い実行力により、世界的な研究教育拠点形成が期待できるもの
- ③ 特色ある学問分野の開拓を通じて独創的、画期的な成果が期待できるもの

なお、この21世紀COEプログラムで行う事業が終了した後も、世界的な研究教育拠点としての継続的な研究教育活動が期待できるものを重視する。

2. 審査は、大学からの申請に基づき、拠点規模の大小にとらわれず特色ある研究を行っているものに配慮しつつ、次の2つの点を中心に、評価を行うものとする。

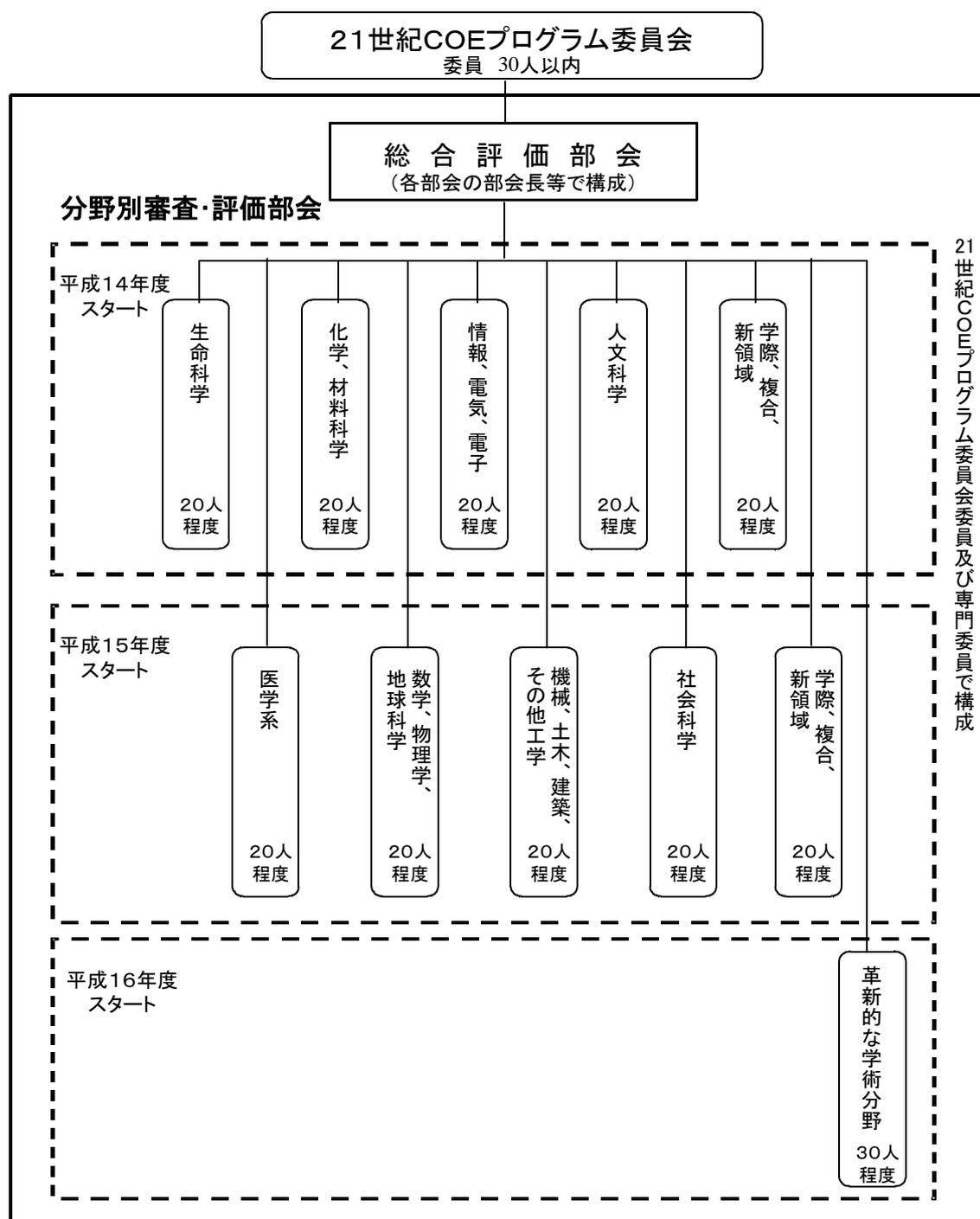
- ① 当該拠点の申請内容に係る研究教育活動の実績
- ② 大学の将来構想及び当該拠点を形成するための構想・計画

II. 審査方法

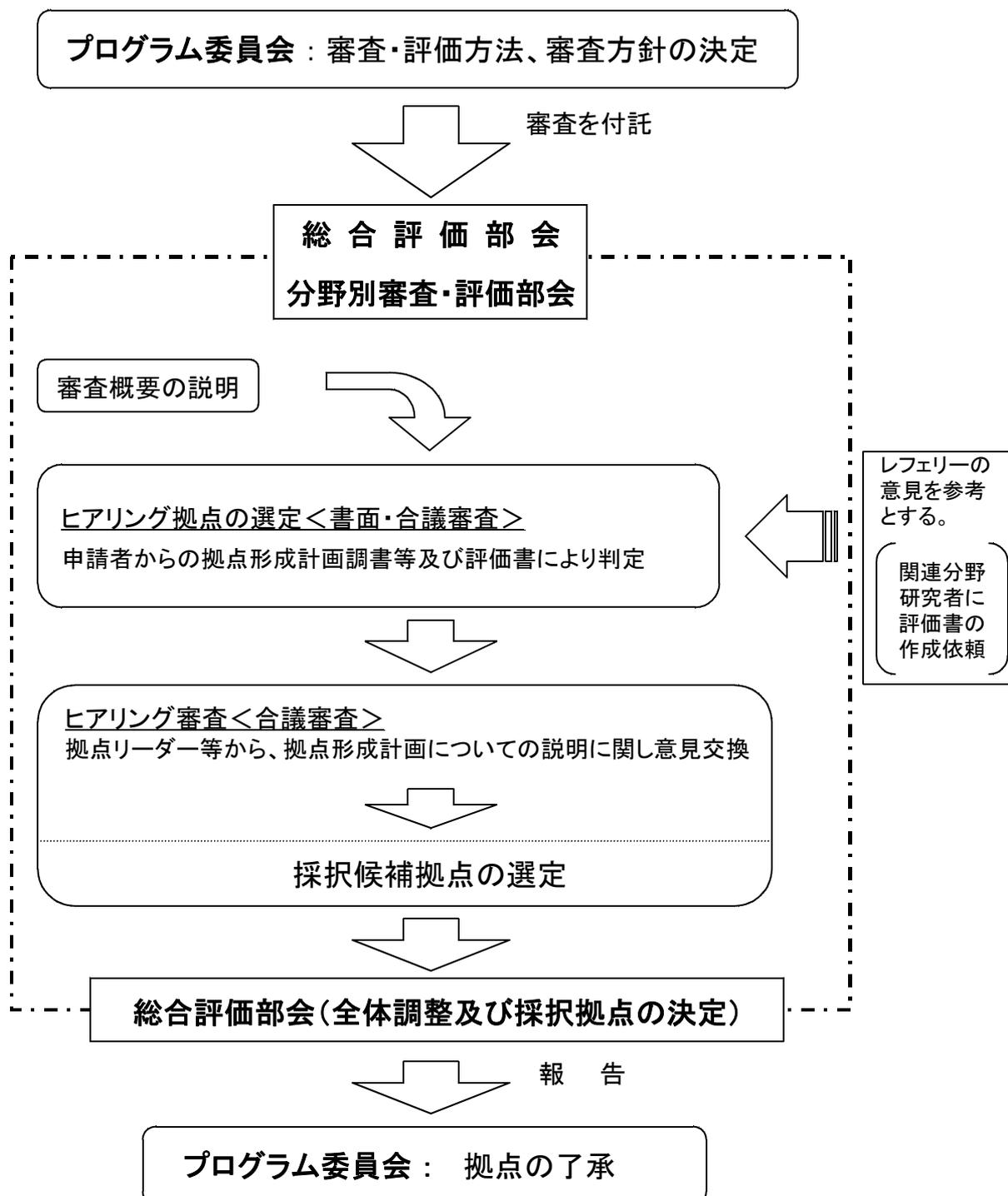
- 「21世紀COEプログラム」の研究教育拠点（以下「拠点」という。）の選定は、分野別審査・評価部会の各部会（平成14年度は、生命科学部会、化学・材料科学部会、情報・電気・電子部会、人文科学部会、学際・複合・新領域部会、平成15年度は、医学系部会、数学・物理学・地球科学部会、機械・土木・建築・その他工学部会、社会科学部会、学際・複合・新領域部会、平成16年度は、革新的な学術分野部会）において、採択候補拠点を選定し、その中から、総合評価部会が採択拠点を決定する。

その後、21世紀COEプログラム委員会に報告し、了承を得る。

2. 21世紀COEプログラムの審査体制



3. 分野別審査・評価部会における審査手順



4. 評価に当たっての着目点

本審査を行うに当たり、別紙の資料を用いることとし、評価に当たっての着目点は次のとおりとする。

(1) 研究教育活動の実績

- ① 研究教育活動が、当該分野において、世界的な水準から見て優れたものであるか。
- ② 研究教育活動が、当該将来構想、特に拠点形成計画を遂行するに当たって必要なポテンシャルを示すものであるか。
- ③ 研究教育活動の現状は、必ずしも十分とは言えないが、将来、世界最高水準になりうるものか。

(2) 将来構想及び拠点形成計画

- ① 学長を中心としたマネジメント体制の下、世界最高水準の拠点形成への重点的取り組みが予定されているものであるか。
- ② 拠点形成計画の内容が、世界最高水準を目指すものであるか。
- ③ 拠点形成計画が、着実かつ現実的であり、拠点として活性化が図られるものであるか。
- ④ 若手研究者が、独立してその能力を十分に発揮できるような拠点形成となっているか。
- ⑤ 研究を通じた教育により、学生が将来、有為な人材として活躍できるよう必要な体制が計画されているか。
- ⑥ 特色ある学問分野の開拓を通じて独創的、画期的な成果が期待できるか。
- ⑦ 大学全体の将来構想において、拠点形成計画が十分戦略的なものとして位置付けられているか。

(3) 申請経費の合理性等

- ① 申請経費の内容は妥当であり、計画上、必要不可欠なものか。

5. その他

(1) 申請及び支援等

- ① 10分野に区分された学問分野のうち、平成14、15年度各々5分野について申請を受け、審査を行う（下表参照）。

各大学からは、個々の申請についてどの分野での審査を希望するかを含めて申請を受け、それぞれ大学が希望する分野において審査を行うものとする。したがって、申請分野については、他の分野への移し変えはしない。

なお、審査は下表の分野ごとに行うものであり、例示された細分野ごとに行うものではない。

平成16年度は、革新的な学問分野の開拓を目指す研究教育拠点形成に限定して申請を受け、審査を行う。（平成14、15年度に既に審査が行われた学問分野毎の再申請・再審査は行わない。）

具体的には

- ・新たな学術的進展の認められる研究教育領域であるもの
 - ・新たな学術分野の構築を目指した研究教育体制の基盤が整備されているもの
- などを対象にする。

<申請に際し、特に留意すべき事項>

- ・本プログラムの目的に鑑み、個別の研究プロジェクトではなく、研究教育拠点形成のプログラムであること。
 - ・大学院博士課程レベルの研究教育を対象としたプログラムであり、本プログラムの目的に相応しい活発な活動、取組の基盤があること。
- ② 申請額は、原則として、1件当たり年間1千万円から5億円の範囲で、必要な経費に限定して申請することとし、支援期間は原則5年間であるが、拠点形成計画に対応し必要な額であるかという観点から審査・評価を行う。

<参考：平成14、15年度審査対象分野>

分 野	例としての細分野（ただし、この例示に拘束される必要はない）
○ 生命科学	バイオサイエンス、生物学、医用工学、生体工学、農学、薬学 等
● 医学系	医学、歯学、看護学、保健学 等
○ 化学、材料科学	化学、材料科学、金属工学、繊維工学、プロセス工学 等
● 数学、物理学、地球科学	数学、物理学、地球科学、応用物理学 等
○ 情報、電気、電子	情報科学、電気通信工学 等
● 機械、土木、建築、その他工学	機械工学、システム工学、土木工学、建築工学 等
○ 人文科学	文学、史学、哲学、心理学、教育学、演劇、言語学、芸術 等
● 社会科学	法学、政治学、経済学、経営学、社会学、総合政策 等
○ 学際、複合、新領域	環境科学、生活科学、エネルギー科学、地域研究、国際関係 等
● 学際、複合、新領域	

※ ○は平成14年度、 ●印は平成15年度の募集・選定を示す。

(2) 開示・公開等

- ① 審査は、非公開とし、審査の経過は他に漏らさない。
- ② 拠点が決定後、ホームページへの掲載等により、情報を公開する。

(3) 利害関係者の排除

申請に直接関係する委員は、審査・評価を行わないものとする。

書面審査の場合は、該当委員を除く委員で審査・評価を行うこととし、合議審査（ヒアリングを含む。）の場合は、関係申請の審議中は退席することとする。

（利害関係者と見なされる場合の例）

- ・委員が代表権を有する、又は、長を務める機関からの申請
- ・委員本人を拠点リーダーとする申請
- ・委員が所属する組織（例：大学院研究科、研究所等）の構成員が拠点リーダーとなっている申請
- ・その他委員が中立・公正に審査を行うことが困難であると判断される申請

(4) 中間評価・事後評価

本プログラムについては、2年経過後に中間評価、期間終了後に事後評価を実施する。詳細は、採択申請者に対し、別途通知する。

別紙

審査に用いる資料の主な内容

1. 将来構想等調書（大学ごとに一組）
 - ・申請内容を中心とした大学の将来構想
 - ・学長を中心としたマネジメント体制の下に、どのように拠点形成を進めるのか
2. 拠点形成計画調書（拠点ごとに一組）
 - ・拠点のプログラム名称・中心となる専攻等・拠点リーダー・事業経費・事業推進担当者等
 - ・拠点形成の目的・必要性
 - ・拠点形成実施計画
 - ・教育実施計画
 - ・経費の明細
3. 研究教育活動調書（拠点ごとに一組）
 - (1) 研究教育活動に係る実績
 - (2) 共通データ（必須項目）
 - ①研究成果の発表状況及びその水準
 - ・レフェリー付き学術雑誌等への研究論文発表状況又は専門書等の発行状況
 - ・学会賞等各賞の受賞状況等
 - ・国際学会での発表（基調講演・招待講演等）状況
 - ②競争的資金等の獲得状況
 - ・科学研究費補助金採択状況
 - ・他の競争的資金採択状況（省庁関係助成金、財団等助成金）
 - ③教員の流動性
 - ・教員の他大学等での経験状況
 - ・任期制、公募制の導入状況
 - ④大学院学生に対する教育の状況
 - ・大学院学生の在籍及び学位授与状況
 - (3) 拠点に係る研究者調書
 - (4) 任意選択データ（特色を示すその他のデータ）

（備考）

3. 研究教育活動調書については、各大学が拠点の特色としてアピールしたいことを尊重するため、共通的に提出を求めるデータは上記の必須項目（4項目8種類）に限り、他は大学の任意とする。

3. (2)の①、②及び(3)については、拠点形成事業推進担当者の中から研究者10人以内を対象に作成を求めるものとする。

平成16年度 「21世紀COEプログラム」書面審査表

審査委員名： _____

機 関 名	機関・整理番号	—
拠点のプログラム名称		
専 攻 等 名		
拠 点 リ ー ダ ー 名		
革新的な学術分野に係る評価 (□に✓のチェック)	<input type="checkbox"/> 過去の公募でカバーしきれなかった革新的な学術分野の開拓を目指すものである。 <input type="checkbox"/> 革新的な学術分野を開拓する可能性がある。 革新的な学術分野の開拓を目指すものであるかについて、本学術分野は特に重要であるのでヒアリング審査をする方が良い。 <input type="checkbox"/> 革新的な学術分野を開拓する可能性がある。 革新的な学術分野の開拓を目指すものであるかについて、本学術分野は既存の分野に近いのでヒアリング審査をする必要がない。 <input type="checkbox"/> 本拠点形成で目指す学術分野は、過去に公募した学術分野の域を越えていない。 (コメント)	
拠点形成計画に係る評価 (□に✓のチェック)	<input type="checkbox"/> 研究教育活動の大半は非常に優れており、世界最高水準の拠点形成に相応しい計画である。 <input type="checkbox"/> 研究教育活動のいくつかは優れており、世界最高水準の拠点形成が可能な計画である。 <input type="checkbox"/> 世界最高水準の拠点形成は、研究教育活動及び計画において劣る。 <input type="checkbox"/> 世界最高水準の拠点形成は、困難である。	
(研究教育活動の実績) ① 事業推進担当者のこれまでの研究教育活動がそれぞれの担当分野において、世界的な水準に達しているか。 ※ 1. 十分に達している 2. 達している 3. 不十分である 4. 達していない (コメント) ② 現在までの研究教育活動が総体として、本申請の革新的な学術分野の形成において十分な基盤を与えるものであるか。 ※ 1. 十分に与えるものである 2. 与えるものである 3. 不十分である 4. 与えるものではない (コメント) ③ 研究教育活動の現状は、必ずしも十分とは言えないが、将来、世界最高水準になりうるものか。 ※ 1. 十分になりうる 2. なりうる 3. 必ずしもなりうるとは言いがたい 4. なりえない (コメント)		
(将来構想及び拠点形成計画) ① 学長を中心としたマネジメント体制の下、世界最高水準の拠点形成への重点的取り組みが予定されているものであるか。 ※ 1. 十分に予定されている 2. 予定されている 3. 予定されているとは言いがたい 4. されていない (コメント) ② 拠点形成計画の内容が、世界最高水準を目指すものであるか。 ※ 1. 優れて目指すものである 2. 目指すものである 3. 目指すには不十分である 4. 目指すものではない (コメント) ③ 拠点形成計画が、着実かつ現実的であり、拠点として活性化が図られるものであるか。 ※ 1. 非常に着実かつ現実的であり活性化が図られるものである 2. 着実かつ現実的であり活性化が図られるものである 3. 必ずしも着実かつ現実的でなく活性化が図られるとは言いがたい 4. 着実かつ現実的でなく活性化は図られない (コメント) ④ 若手研究者が、独立してその能力を十分に発揮できるような拠点形成となっているか。 ※ 1. 十分になっている 2. なっている 3. なっているとは言いがたい 4. なってはいない (コメント) ⑤ 研究を通じた教育により、学生が将来、有為な人材として活躍できるよう必要な体制が計画されているか。 ※ 1. 十分な体制が計画されている 2. 計画されている 3. 計画としては不十分である 4. されていない (コメント) ⑥ 革新的な学問分野の開拓を通じて独創的、画期的な成果が期待できるか。 ※ 1. 非常に期待できる 2. 期待できる 3. 期待できるとは言いがたい 4. できない (コメント) ⑦ 大学全体の将来構想において、拠点形成計画が十分戦略的なものとして位置付けられているか。 ※ 1. 十分に位置付けられている 2. 位置付けられている 3. 位置付けられているとは言いがたい 4. 位置付けられていない (コメント)		
(申請経費の合理性等) ① 申請経費の内容は妥当であり、計画上、必要不可欠なものか。 ※ 1. 十分に妥当かつ不可欠 2. 妥当かつ不可欠 3. 妥当かつ不可欠とは言いがたい 4. 妥当ではなくまた必要でない (コメント)		

「21世紀COEプログラム」年度別審査スケジュール

	平成14年度	平成15年度	平成16年度
1月		1/29(火) ・公募開始	1/23(金) ・公募開始
2月		↓	↓
3月		3/5(水)～3/7(金) ・申請受付 ↓ 3/27(木)・3/28(金) 【審査・評価合同部会】 ・審査概要説明	3/3(水)・3/4(木) ・申請受付 ↓
4月		4/10(木)・4/11(金) 【審査・評価部会(第1回)】 ・レフェリー選考→書面審査 ↓	4/16(金) 【審査・評価部会(第1回)】 ・審査概要説明 ・レフェリー選考→書面審査 ↓
5月		5/15(木)～5/22(木) 【審査・評価部会(第2回)】 ・ヒアリング実施拠点の選定 ↓	5/27(火)・5/28(水) 【審査・評価部会(第2回)】 ・ヒアリング実施拠点の選定 ↓
6月	6/14(金) ・公募開始 ↓	6/2(月)～6/19(木) 【審査・評価部会(第3回)】 ・ヒアリング ・採択拠点候補の選定 ↓ 6/30(月) 【総合評価部会】 ・採択拠点の決定	6/14(月)～6/16(水) 【審査・評価部会(第3回)】 ・ヒアリング ・採択拠点候補の選定 ↓
7月	7/18(木)・7/19(金) 【審査・評価合同部会】 ・審査概要説明 ↓ 7/24(水)～7/26(金) ・申請受付 ↓	↓	7/5(月) 【総合評価部会】 ・採択拠点の決定 ↓
8月	8/8(木)・8/9(金) 【審査・評価部会(第1回)】 ・レフェリー選考→書面審査 ↓ 8/29(木)～9/5(木) 【審査・評価部会(第2回)】 ・ヒアリング実施拠点の選定 ↓		7/21(水) 【プログラム委員会】 ・採択拠点の了承
9月	9/11(木)～9/19(木) 【審査・評価部会(第3回)】 ・ヒアリング ・採択拠点候補の選定 ↓ 9/25(水) 【総合評価部会】 ・採択拠点の決定 ↓ 9/30(月) 【プログラム委員会】 ・採択拠点の了承		